

歯科医院の資金管理

歯科会計の橋本会計
公認会計士・税理士 橋本 守



確定申告で利益が出て、納税した後に残るお金が純粋に1年間に蓄積できるお金ですが、場合によっては納税資金を借入によらなければならないこともあります。1年間に使えるお金を年初に計画しておくといういろいろな意思決定がしやすくなりますので、今回は資金管理についてまとめてみます。

1 1年間に使えるお金はいくらか？

1年間に使えるお金はいくらかというと、直観的に年間の収入を思い浮かべがちですが、実際に使えるお金は年間収入からするとその20%位です。

一般的な歯科医院の状況で考えると表1のようになります。

表1の例によれば、年間収入が5,000万円、診療材料・外注費で1,000万円、給与で1,000万円、家賃で500万円、その他経費で1,000万円とすると、課税上の利益が1,500万円となり、税金が491万円、借入金の返済を差し引くと、使えるお金は年間で993万円、月間で83万円

ということになります。

2 1年間に蓄積できるお金はいくらか？

使えるお金が年間993万円あるとして、そのなかからいくら預金が増えるかというと、この後は各先生方の家計費の水準によります。月家計費が80万円以上使っている場合には預金は増えません。月々の家計費の金額を確認して下さい。家計費として考慮するのは、食費、住居費(自宅の家賃や自宅の住宅ローン)、教育費、その他歯科事業で経費処理していないものすべてになります。

3 年間の経費計画と設備投資計画をたてましょう！

経費計画の中心は人件費です。給与について昇給と新規採用計画により増加する人件費を計画して下さい。増加する人件費分が資金に影響します。

また、年間の設備投資計画により必要資金を計画して下さい。仮に、昇給率1.0%、設備投資300万円(7

年返済)として試算します。

表2の試算によると、使えるお金は現状ほぼ変わりませんので、診療収入計画は現状のままでも使えるお金に大きな減少はないということがわかります。

なぜなら、収入や経費は変わりませんが、設備投資による医療機器の減価償却費が増加し、昇給分の経費増加と合わせて課税利益が117万円減少したことにより税金が49万円減少したことで借入金の返済が42万円増加したにも関わらず、使えるお金は3万円の減少で済んだということです。もし、使えるお金が減少するようであれば診療収入を増加させたり、他の経費を削ったり、新規購入の設備の借入金の返済期間を長くしたりして使えるお金のバランスをとることが必要となります。

4 歯科医院の月々の資金状況は？

歯科医院の診療収入は保険窓口負担金(約30%)、保険振込分(2カ月後)、自由診療収入分からなります。

このうち保険窓口と自由診療収入は治療時に入金されますが、保険振込分については社保・国保とも2カ月前の診療分がまとめて月末近

くに入金されます。一方、支払経費はほとんどが月末までに支払うものなので月々の資金については保険振込分以上の手許資金がないと月中の資金はギリギリの状態になりがちです。

月末預金の水準が一定の水準以下にならないように注意しての資金管理が必要です。(表3参照)

5 月々計画的に準備しておきたい資金

支払が月々ではなく半年に1回や年1回というような支払については月々計画的に準備しておく(別口座の預金に蓄積)資金管理がうまくいきます。

このような支払としては表4のようなものがあります。

賞与は通常年2回ですので、必要額を6カ月で準備することになります。源泉所得税は毎月納付が原則ですが、スタッフ等が10人未満の場合には届け出により6カ月ごとの納付にできますので、その手続きをとって毎月の源泉税を積み立てておくよと思います。納税資金についても予定額を積み立てておくと、一時的な支出が減ってきます。

それ以外でも、金額が計画できるものは積立方式にすると資金の安定化につながります。

表1

項目	年間	月間
診療収入(窓口負担金1,500万円)	5,000	416
診療材料・外注費	1,000	83
給与	1,000	83
家賃	500	42
その他経費(内減価償却費250万円)	1,000	83
課税利益	1,500	125
借入返済(4,000万円・15年返済)	266	22
税金(所得税・住民税)	491	41
減価償却費	250	21
使えるお金	993	83

(万円)

表2

項目	現状	新年度
診療収入	5,000	5,000
診療材料・外注費	1,000	1,000
給与	1,000	1,010
家賃	500	500
その他経費(内増加減価償却費107万円)	1,000	1,107
課税利益	1,500	1,383
借入返済(追加借入返済42万円)	266	308
税金(所得税・住民税)	491	442
減価償却費	250	357
使えるお金	993	990

(万円)

表3

項目	支払・入金	残高が291万円の場合	残高291万円以下の場合
前月末預金		291	200
保険窓口負担金	125	416	325
経費支払	-270	146	55
借入返済	-22	124	33
家計費	-83	41	-50
税金分	-41	0	-91
保険振込分	291	291	200

(万円)

資金マイナス

表4

項目	支払のタイミング	月々の蓄積目安
賞与	年2回	賞与1回分を半年で蓄積
源泉税(年2回払の場合)	年2回	月額を積立
納税資金	年1回(予定納税の場合は2回)	年間計画額を積立
設備投資資金	5年から7年	予定額を更新期間で積立
お子様の学費	大学入学までの期間	学資保険等に加入